

141 子宮内膜症における CA125 及び
CA19-9 の血清値と免疫組織学的観察の比較検討

佐賀医大

中村加代子, 宗 完子, 蜂須賀徹, 杉森 甫

【目的】子宮内膜症のマーカーとして CA125 および CA19-9 が報告されている。我々は子宮内膜症患者の血清 CA125 および CA19-9 を測定し、さらに摘出標本についても両者を免疫組織学的に染色し検討した。【方法】当科にて入院治療し、病理組織学的に子宮内膜症と診断の確定した 31 例を対象とした。その内訳は子宮腺筋症 10 例、外性子宮内膜症 17 例、両者合併 4 例である。子宮内膜症の分類については R-AFS 分類を使用した。免疫組織学的検索には、シス社抗 CA125, 抗 CA19-9 を用い ABC 法にて染色した。【成績】血清 CA125 高値例は子宮腺筋症、外性子宮内膜症で共に約 50 % であり差はなかった。血清 CA19-9 高値例は子宮腺筋症で 10 % であったのに対し、外性子宮内膜症では 30 % であった。R-AFS 分類に関しては、Ⅰ～Ⅲ期までは CA125 高値例は 11 %, CA19-9 高値例は 0 であり、それに比しⅣ期での CA125 高値例は 92 %, CA19-9 高値例は 67 % で、進行期が進む程有意に高値を示した。免疫組織学的には、CA125 と CA19-9 の局在は子宮内膜上皮の腺腔側に強く染色される例と、細胞質にびまん性に染色される例がほぼ同数あった。子宮腺筋症では 90 % に CA125 が陽性であり、CA19-9 は染色されなかった。外性子宮内膜症では CA125 が 21 %, CA19-9 が 36 % に染色されたが血清値との間に有意な相関はなかった。【結論】R-AFS 分類では進行例程血清 CA125, CA19-9 の値が有意に高値であった。免疫組織学的観察と血清値との間には子宮腺筋症では一致する傾向があるものの、外性子宮内膜症では有意な関係はなかった。

142 月経周期における血中 CA125 値の変動
— 正常排卵周期、黄体機能不全及び無排卵周期の
婦人についての検討 —

京都大

野々垣比路史, 南部吉彦, 小林史典, 小西郁生,
佐川典正, 藤井信吾, 森 崇英

【目的】腫瘍マーカー CA125 は、各種婦人科疾患で血中値が上昇することが明かとされ、また最近では月経時にも上昇することが示唆されている。しかし、月経時に、すべての女性の血中 CA125 値が上昇するのか、また月経時にはどのような機序のもとで血中に CA125 が移行するのかといった点は明かにされていない。そこで、特に婦人科疾患を有していないと考えられる若年・未婚女性を対象としてこれらの点を明かにすべく以下の検討を行った。【方法】月経を有する volunteer 29 例 (19～21 歳) について、BBT 測定とともに、月経開始時から次回の月経終了までの間、連続的に血中 CA125 値を測定した。また BBT 上排卵後 7 日目 (無排卵周期例では月経前 7 日目) の血中 estradiol と progesterone (P) 値を測定した。【成績】29 例はその BBT と血中 P 値より正常排卵周期 9 例、黄体機能不全 17 例、無排卵周期 3 例に分類された。血中 CA125 値は月経時以外は 29 例全てで 35 U/ml 未満であったが、月経時には正常排卵周期 9 例は、平均基礎値 17.37 ± 2.16 (M $\pm$ SE) U/ml から更に平均 50.23 ± 16.73 U/ml の上昇幅をもつ血中 CA125 値の有意なピークがみられたが、黄体機能不全 17 例では平均基礎値 14.03 ± 1.43 U/ml から 4.54 ± 0.74 U/ml の上昇幅、さらに無排卵周期 3 例では平均基礎値 8.36 ± 1.59 U/ml から 2.60 ± 0.59 U/ml とほとんど血中 CA125 値の上昇は認められなかった。【結論】今回の検討により、月経時には血中 CA125 値がその女性の持つ基礎値から急上昇するものと、軽度上昇するもの、またほとんど変動しないものが存在し、これは前周期の黄体機能と密接に関連していることが明かとなった。これは今までの免疫組織学的検討から、内膜間質の脱落膜細胞化の程度の差に最も相関があると考えられた。